

氏名	松岡 敬典
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6226 号
学位授与の日付	2020 年 6 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	The Influence of Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy on Quality of Life of Gynecologic Cancer Survivors (化学療法誘発性末梢神経障害が婦人科がんサバイバーにおける生活の質に及ぼす影響)
論文審査委員	教授 頼藤貴志      教授 平沢 晃      教授 田端雅弘

#### 学位論文内容の要旨

抗癌剤は生存期間や寛解期間の延長に寄与するが、その一方、副作用の1つである化学療法誘発性末梢神経障害 (chemotherapy-induced peripheral neurotoxicity; CIPN) がしばしば出現する。特にタキサン系やプラチナ系製剤は CIPN が発症しやすく、患者の (Quality of Life; QOL) を低下させることが知られている。CIPN 発症率は用量、併存疾患によって異なり、当科での検討ではパクリタキセルとカルボプラチン併用療法 (TC) が 6 コース以上施行した (パクリタキセルを 1000mg/m<sup>2</sup> 以上用いた) 患者が CIPN に大いに関与していた。パクリタキセルを 1000mg/m<sup>2</sup> 以上用いた患者は治療後 1 年以内では約 6 割に CIPN が生じており、5 年経過しても 4 割以上の患者は CIPN が残存していた。

そこで我々は自己記入式質問票の Functional Assessment of cancer Therapy-General (FACT-G) スコアを用いて、記入時点での QOL を身体面、心理面、社会面、機能面の多方面から評価した。CIPN が出現した TC6 コース以上施行した患者では経過とともに精神面と活動面は有意に改善していたが、身体面と社会面では改善は認めなかった。

この研究結果から、FACT-G スコアは婦人科がんサバイバーにおける CIPN 評価・症状把握の一助になることが示された。

#### 論文審査結果の要旨

抗癌剤は生存期間や寛解期間の延長に寄与するが、その一方、副作用の1つである化学療法誘発性末梢神経障害 (chemotherapy-induced peripheral neurotoxicity; CIPN) がしばしば出現し、患者の (Quality of Life; QOL) を低下させることが知られている。

本研究では、自己記入式質問票の Functional Assessment of cancer Therapy-General (FACT-G) スコアを用いて QOL を身体面、心理面、社会面、機能面の多方面から評価、その後 CIPN 出現と QOL との関連を評価した。CIPN が QOL 低下と関連していたが、経過とともに CIPN 有症者の精神面と活動面の QOL の改善が認められた。一方、身体面と社会面では改善は認めなかった。

委員からは、治療の完遂の程度、脱落の程度、治療後の期間別の評価が同一対象者ではないことの問題点が上げられたが、本研究者は具体的を上げて回答した。

治療後の副作用の頻度、またそれに付随する QOL の変化について、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。